



## 幼児の音楽的發達

東京家政大學教授 山下俊郎

幼児の生活内容として音楽は非常に大切な意味を持つてゐる。そしてこの音楽に對する幼児の意識や行動は、外のすべての生活面と同じように、年齢にともなつてだん／＼と發達して行く。そこには年齢にともなう一般的發達が認められる。しかし、もう一方から考えると音楽に對する意識や行動というものはその子供の生活してゐる環境によつて非常に違つてゐる。幼児の音楽的生活は環境のそのままな反映であるといつてもいいであらう。このことを考えると音楽に對する幼児の意識や行動はおそらくその子供の生活してゐる國情によつて大いに違つて來ると考えられる。したがつて、アメリカの子供と日本の子供とでは音楽に對する意識は異なるものがあると思われれる。アメリカの子供の音楽的發達を以てすぐ日本の子供のそれを律することには無理があるかも知れない。しかし、すべての心理的發達には國情や環境を超越して認められる一般的な通有性があり、それがさらに環境によつて多少の變異を見るようになるのである。そこで、果してその通有性がどの程度まで認められるかということに對して、

この稿で一つの研究材料を提供して見たい。それはアメリカでゲゼルが長年の研究の結果からひき出して來た幼児の音楽的發達に關する資料である。アメリカの幼児と日本の幼児との音楽的發達の違いと通有性ということについて、讀者の身邊にある幼児を比較研究して見て頂きたい。

○  
幼児の音楽的發達についてのゲゼルの記述は一歳半からはじまり、三歳までは半歳ごとその上の年齢では一歳ごとの年齢段階に分けて述べられてゐる。各年齢ごとの發達的特質として擧げられてゐる項目を次に記るして見よう。

### 一歳半

- 1 簡単な言葉をハミングしたり、歌つたりする。
- 2 聲の調子、強さ、音質の範圍がめだつてひろくなる。
- 3 鈴、筒、時計などの音に非常によく注意するようになる。

4 音楽を聞くと全身を動かしてリズム的な反応をする。

## 二歳

- 1 歌の文句を歌う、しかし大抵調子は外れている。
- 2 揺り椅子、ブランコのようなリズム的に動く遊具をよるこぶ。これらの遊具で遊んでいると歌が自然に口をついて出ることが多い。
- 3 膝をまげてはねたり、身体を傾けたり、腕を振り動かしたり、頭を振つたり、脚を叩いたりするようなリズム的な反応が出来るようになる。
- 4 音楽にあわせて歩いてるとき、積木や鈴を持つたり、他の子供の手をとつたりすることを喜ぶ。
- 5 レコードを聞いているとき蓄音器の動くのを見ることに非常に興味を持つている。

## 二歳半

- 1 家庭や学校（ナースリー・スクール）で歌う歌をよく覚えていく（一部分のこともある）しかし他の子どもと一緒に歌うことはいやがることが多い。
- 2 簡単な文句を自分で短三度のメロディをつけて歌うことがある。
- 3 音楽に夢中になつて聞き入る。そして特に前に聞きなれているものを何回も何回もくり返して聞くことを喜ぶ。

- 4 蓄音機をかけて音楽を聞くことを非常に喜ぶ。
- 5 ラヴェルのボレロやバンド音楽のようなリズムのはつきりしたものを喜ぶ。

## 三歳

- 6 鋭い耳を持つた音楽的才能のある子供はこの年齢には時として蓄音器を恐ることがある。
- 7 リズム的運動は主として他のひとの模倣によることが多いので個人差はあまり認められない。
- 8 音楽に合せて、他の子供を見ながら立つたり、ギャロップしたりする子供が多い。
- 9 簡単なグループ遊びを好むようになる。
- 1 一つの歌を全部おぼえて歌えるようになる。しかし調子は外れている方が多い。
- 2 簡単な音を合せることが出来るようになる。
- 3 グループで歌うことをいやがらなくなる。
- 4 二三のメロディをはつきり覚えていくようになる。
- 5 楽器をいじりたがるようになる。
- 6 歌や楽器について話をしてやると非常に喜び、興味を増すようになる。
- 7 音楽をきくことに對する興味や能力には非常な個人差がある。
- 8 いろいろの種類のちがつた音楽を喜ぶ。
- 9 大部分の子供はいろいろのリズム遊びに入ることが好

む。

- 10 他の子供がリズムをして傍へ寄つて来るといままで見  
ていた子供も入るようになる。
- 11 音楽に相當によく合せてギャロップし、とび、歩き、  
走るようになる。
- 12 リズム遊びのために扮装することをよろこぶ。

#### 四歳

- 1 正しい調子とリズムに合わせて歌うように聲を調節す  
ることが出来るようになる。
- 2 一つの歌を全部正しく歌える子供も出て来る。
- 3 グループで歌うことを一層よくするようになる。
- 4 歌を歌うとき一人ずつかわりばんこに歌うことを喜  
ぶ。
- 5 簡単な歌遊びが出来るようになる。
- 6 歌を劇遊びにすることを喜ぶ。
- 7 遊んでいる間に自分で歌を作つて歌うようになる。
- 8 樂器をひいてみることを喜ぶ、とくに一つの節(とい  
うより音符の結合)をピアノでひいて見ようとする。
- 9 知つているメロディを見つけ出すことを喜ぶ。
- 10 リズムを自發的にするようになる。音楽に合わせていろ  
いろの動きをして見せることを喜ぶ。

#### 五—六歳

- 1 自分の好きなレコードが定つていてレコードを何度も  
何度もかけることを喜ぶ。
- 2 お話を歌つた音楽を好む。
- 3 ピアノで一定の音符をひくことが出来るものもいる。
- 4 二三のよく知つているメロディをピアノで弾くことを  
喜ぶ。同じ歌を何度も何度もひいて喜んでゐる。
- 5 レコードに合わせて歌うことが好きである。
- 6 音楽をきいてそれを舞踊に表現することを好む。

○

以上はゲゼルの研究の結果をそのあらすじだけ紹介したものである。日本の幼児にそのままではまるような所もあるが、必ずしもそうでない所もあるようである。日本の幼児に照し合わせて研究して見ていただきたいと思う。保育のすべての面におけると同じように、音楽においてもまた、幼児の自然的發達の線にそつて保育がすすめられなければならないからである。